

### Ⅲ 結果と考察

## Ⅲ 結果と考察

### 1 介護状況調査について

#### 1.1 要介護高齢者のADLの状況

##### (1) 個別事項の日常生活動作能力

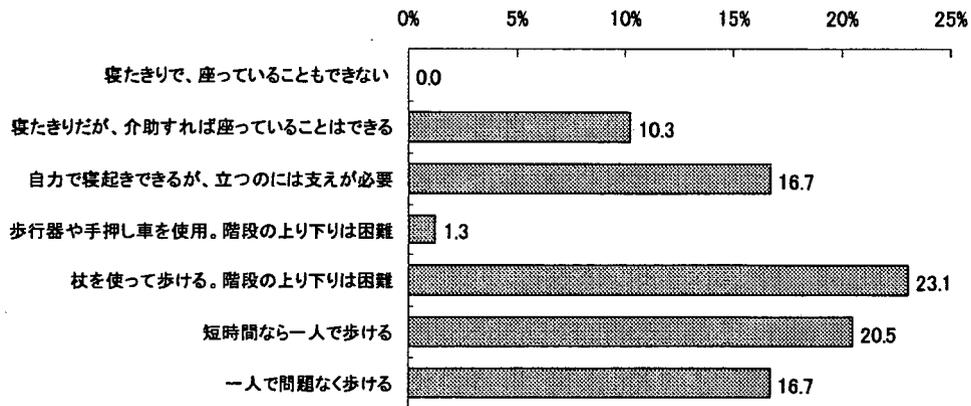
調査対象となった（調査への協力を得た）要介護高齢者の日常生活動作能力（ADL）状況としては、図 3\_1\_1 にみるように、必ずしもADLが低い者が多いわけではなく、むしろ、どの面においても全般に軽度から中程度のADL低下者が中心といえる。但し、個別事項に即してみると、ADL低下者が多い事項としては「生活圏」「着脱衣」「入浴」等があげられる。特に、「着脱衣」の場合は「全面的に介助を要する」が 10.3%であるほか、「ほぼ全面的に介助を要する」が 12.8%であり、約3割が「ほぼ全面介助」以上のADLとなっていた。

IADL（手段的ADL）の状況を見ると、「金銭の管理」「買い物」「家事」などで、それらを全くできない者が多く、30%前後から 40%の割合であった。また、「移動・外出」でも、「全くできない」はごく少数であったが、「付き添われればできる」が50%以上であった。上記のADLとの比較でも、IADL、すなわち社会的な生活行為面からみたADLの状況は全般に良好とはいえない結果となった。

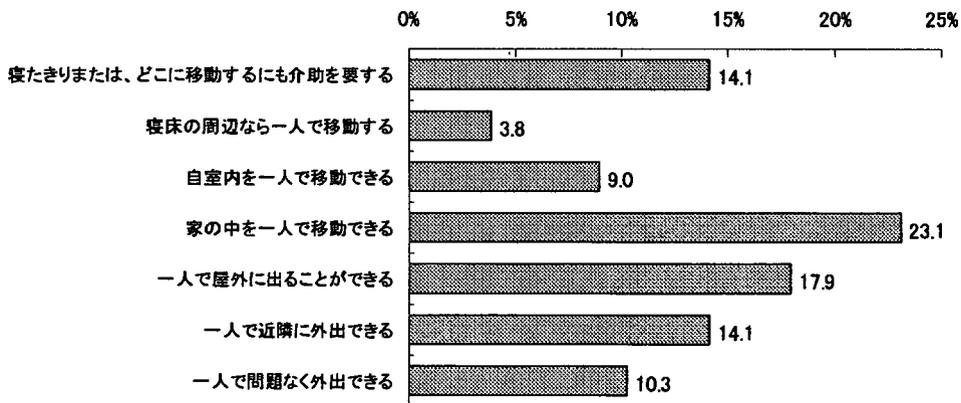
図 3\_1\_1 ADL 関連事項への回答割合—全体—

\* 単位 ; %, n = 78 (=100.0%) \* 無回答は除く

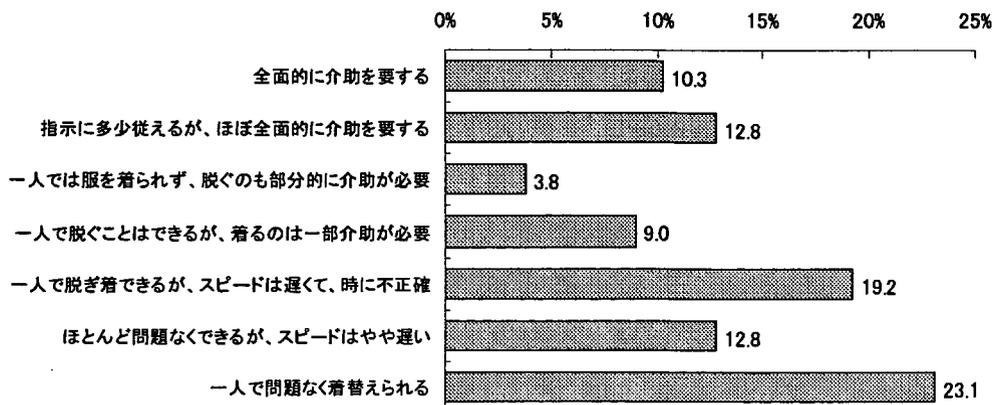
【歩行】



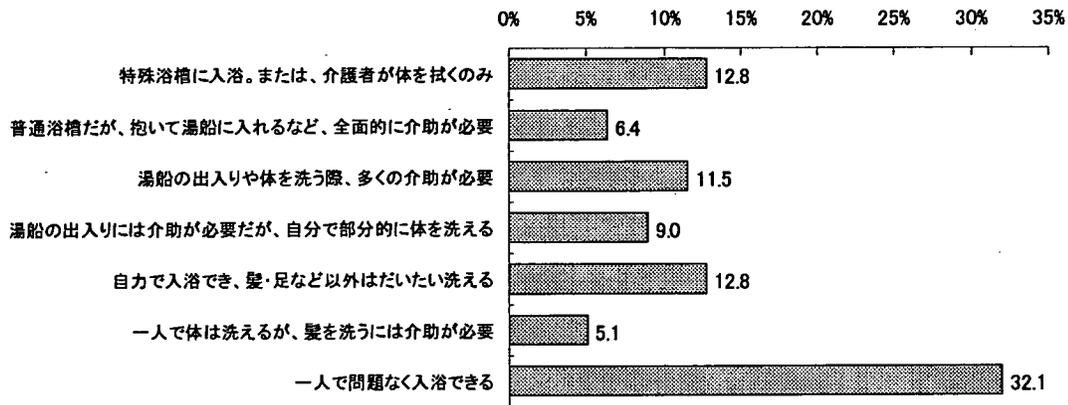
【生活圏】



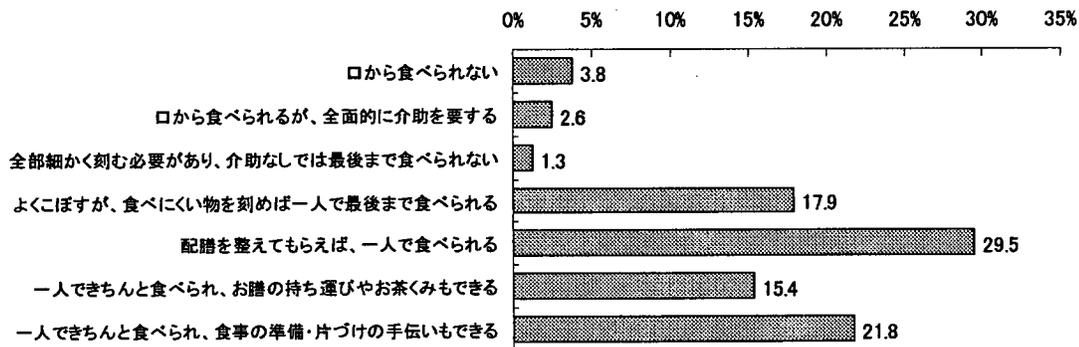
【着脱衣】



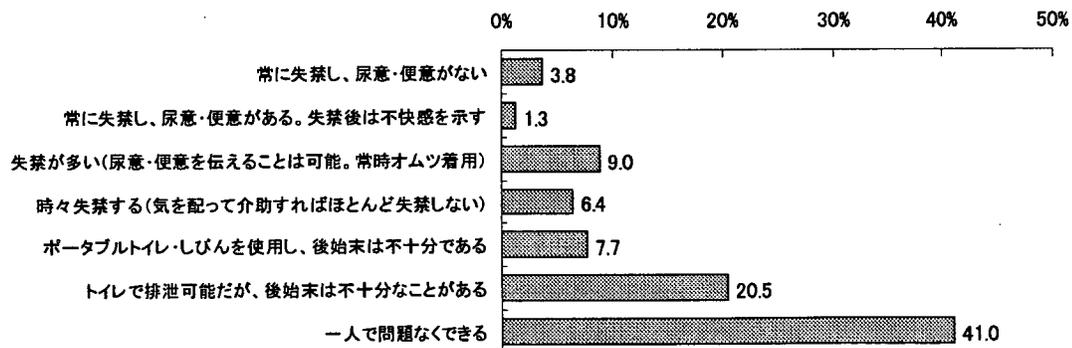
## 【入浴】



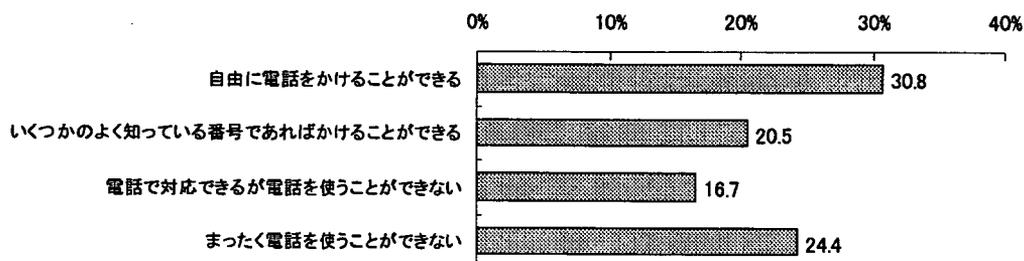
## 【摂食】



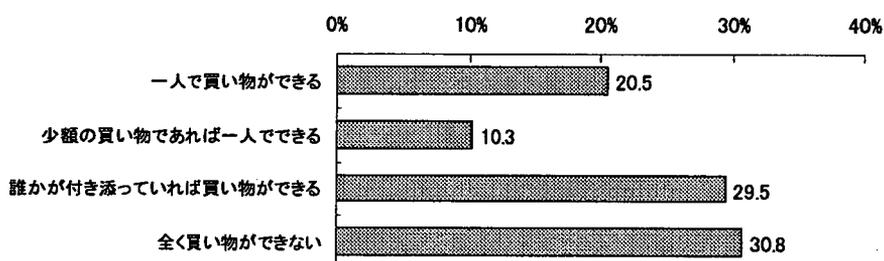
## 【排泄】



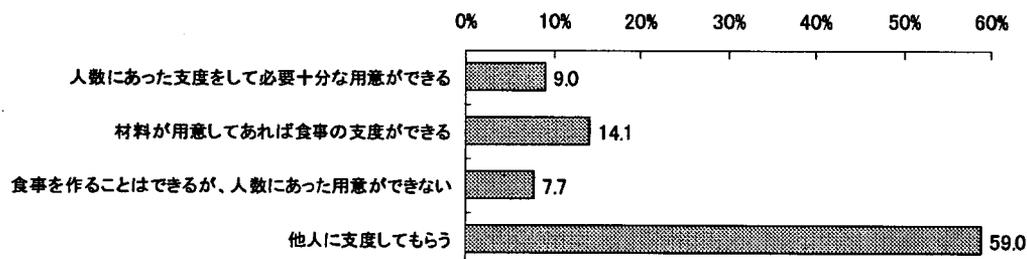
### 【電話の使い方】



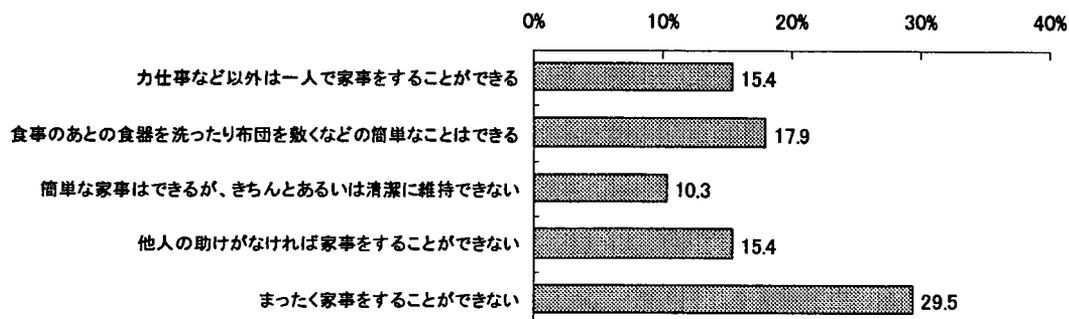
### 【買い物】



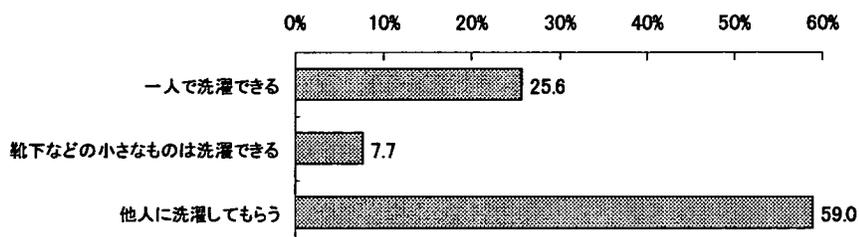
### 【食事の支度】



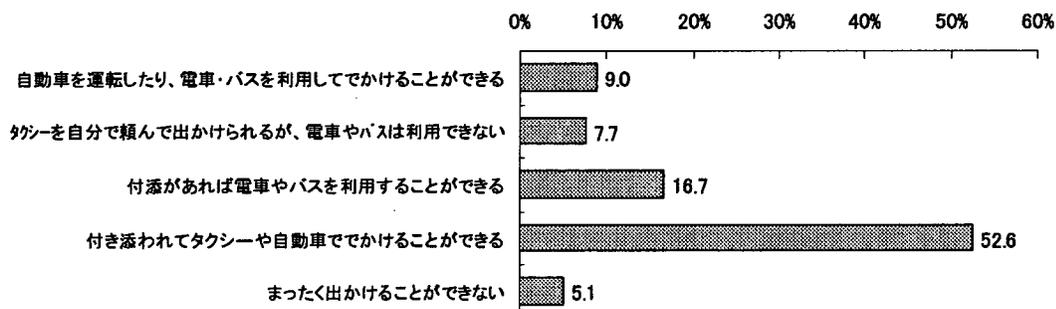
### 【家事】



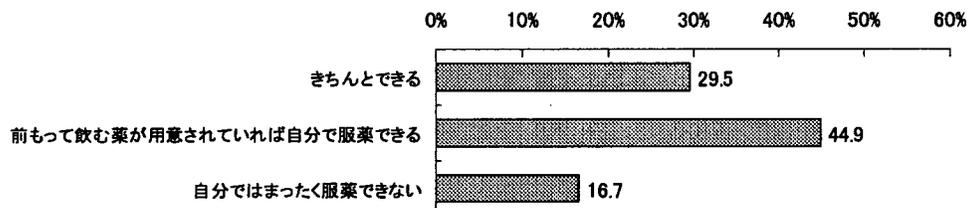
## 【洗濯】



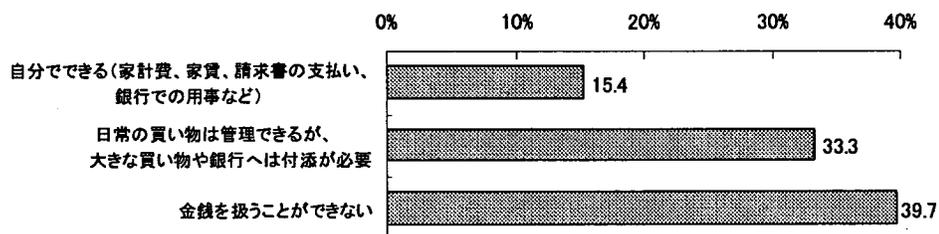
## 【移動・外出】



## 【服薬の管理】



## 【金銭の管理】



## (2) N-ADL (N式老年者用日常生活動作能力評価尺度) による判定結果

前項にみたADL及びIADL関連項目への回答結果からN式老年者用日常生活動作能力評価尺度によりADLを判定した結果を図3\_1\_2に示した。

全体では「軽度」がもっとも多く、29.5%を占めた。次いで、「中等度」が21.8%、「境界」16.7%、「重度」12.8%であった。なお、このN-ADL上は「正常」に分類される者が6.4%であった。(「無回答」等による「判定不能」が12.8%であった。)

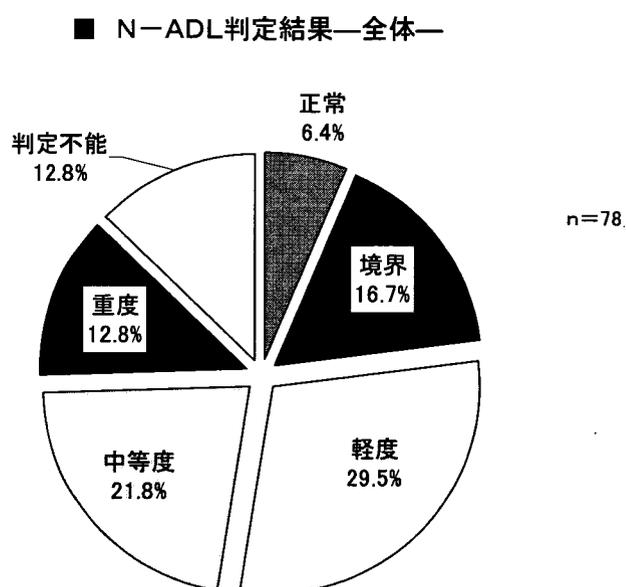


図 3\_1\_2 N式老年者用日常生活動作能力評価尺度による判定結果—全体—

この判定結果を対象者の性別・年齢階級別にみると(表3\_1\_1)、全般に「軽度」ないし「中等度」が多い点で同様であるが、年齢別の「70～74歳」では11人中の7人が中等度以上であった。また、「70歳未満」の9人中3人は「重度」であった。一方、「80～84歳」や「85歳以上」の層では「軽度」がもっとも多く、「重度」は必ずしも多くない。N-ADLの状況は必ずしも年齢とは相関しない面があるといえる。

表 3\_1\_1 要介護者の性別・年齢階級別にみたN-A-D-L判定結果

\* 上段：実数（人）、下段：構成割合（%）

		n %	正常	境界	軽度	中等度	重度	無回答
全 体		78	5	13	23	17	10	10
		100.0	6.4	16.7	29.5	21.8	12.8	12.8
性別	男 性	25	1	3	9	7	3	2
		100.0	4.0	12.0	36.0	28.0	12.0	8.0
	女 性	44	1	10	13	10	7	3
		100.0	2.3	22.7	29.5	22.7	15.9	6.8
	無回答	9	3	-	1	-	-	5
		100.0	33.3	-	11.1	-	-	55.6
年齢別	70歳未満	9	-	3	2	1	3	-
		100.0	-	33.3	22.2	11.1	33.3	-
	70～74歳	11	-	-	3	5	2	1
		100.0	-	-	27.3	45.5	18.2	9.1
	75～79歳	11	-	3	3	3	1	1
		100.0	-	27.3	27.3	27.3	9.1	9.1
	80～84歳	19	2	4	8	3	2	-
		100.0	10.5	21.1	42.1	15.8	10.5	-
	85歳以上	19	-	3	6	5	2	3
		100.0	-	15.8	31.6	26.3	10.5	15.8
	無回答	9	3	-	1	-	-	5
		100.0	33.3	-	11.1	-	-	55.6

## 1.2 介護負担度

表 3\_1\_2 介護負担関連事項への回答割合—全体—

\*単位：％、n=78 (=100.0%)

	思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う	無回答
1. 介護を受けている方は、必要以上に世話を求めてくると 思いますか	39.7	21.8	17.9	5.1	1.3	14.1
2. 介護のために自分の時間が十分にとれないと思いま すか	19.2	28.2	20.5	11.5	6.4	14.1
3. 介護のほかに、家事や仕事などもこなしていかなけれ ばならず「ストレスだな」と思うことがありますか	20.5	21.8	21.8	12.8	9.0	14.1
4. 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思 うことがありますか	23.1	29.5	14.1	10.3	9.0	14.1
5. 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことあり ますか	23.1	38.5	15.4	2.6	6.4	14.1
6. 介護があるので家族や友人と付き合いづらくなっ ていると思いませんか	41.0	14.1	15.4	12.8	3.8	12.8
7. 介護を受けている方が将来どうなるのか不安にな ることがありますか	11.5	21.8	14.1	14.1	25.6	12.8
8. 介護を受けている方は、あなたに頼っていると思 いますか	6.4	11.5	7.7	23.1	39.7	11.5
9. 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらない と思いませんか	34.6	21.8	10.3	11.5	9.0	12.8
10. 介護のために体調をくずしたと思ったことがあり ますか	46.2	19.2	6.4	11.5	3.8	12.8
11. 介護があるので、自分のプライバシーを保つこと ができないと思いませんか	53.8	12.8	7.7	6.4	5.1	14.1
12. 介護があるので、自分の社会参加の機会が減った と思うことがありますか	33.3	21.8	14.1	9.0	9.0	12.8
13. 介護を受けている方が家にいるので、友達を自宅 によびたくてもよべないと思ったことがありますか	39.7	17.9	11.5	7.7	7.7	15.4
14. 介護を受けている方は「あなただけが頼り」とい うふうにみえますか	17.9	9.0	6.4	16.7	37.2	12.8
15. いまの暮らしを考えれば、介護にかかる金銭的な 余裕がないと思うことがありますか	37.2	17.9	7.7	9.0	15.4	12.8
16. 介護にこれ以上の時間は割けないと思うことが ありますか	32.1	17.9	9.0	16.7	9.0	15.4
17. 介護が始まって以来、自分の思いどおりの生活 ができないと思うことはありますか	17.9	25.6	15.4	10.3	16.7	14.1
18. 介護を誰かに任せたいと思うことはありま すか	42.3	19.2	10.3	6.4	7.7	14.1
19. 介護を受けている方に対して、どうしていいか わからないと思うことがありますか	34.6	26.9	10.3	7.7	6.4	14.1
20. 自分は今以上にもっと頑張って介護すべきだ と思うことがありますか	30.8	23.1	17.9	5.1	9.0	14.1
21. 本当はもっとうまく介護できるのになあと思 うことがありますか	32.1	25.6	14.1	7.7	6.4	14.1

注) 網掛けはもっとも多い回答であることを示す。

介護者の介護負担感関連事項への回答をみると、全般に、「思わない」との否定的回答、すなわち介護の負担は特に感じていないとする者がもっとも多かった。ただ、「思わない」がもっとも多い場合でも、必ずしも突出して多いわけではなく、「たまに思う」や「時々思う」とする者も一定程度に多く、項目別の「腹が立つことがある」で「たまに思う」が38.5%を占めたほか、被介護者の「行動に困ってしまうと思うことがある」も約3割が「たまに思う」としており、ともにもっとも多かった。

さらに、被介護者が「介護者に頼っている」「介護者だけが頼り」に関しては、4割近くの回答者が「いつもそう思う」と回答した。また、被介護者が「将来どうなるのか不安」も「いつもそう思う」が約4分の1の25.6%である。他の項目における「いつもそう思う」の割合は全般に10%未満であるから、介護者の負担感は、とりわけ被介護者の依存と将来への不安という面において強いことが伺える。

本調査にみる限り、介護負担感は自己犠牲を強いられる等のストレスはさほどではないものの、介護者、特に主介護者としての心理的な重圧感として表されているといえる。

#### (全般的な負担感)

上のような個別事項に即した負担感のほか、「全体を通して、介護するということは、どのくらい自分の負担になっているか」ときいたところでは、図3\_1\_3のように、「まったく負担ではない」は約1割にとどまり、他は程度の差はあれ、負担感を感じている。「多少負担に思う」や「世間なみの負担だと思う」がともに20%強であり、両者を合わせた割合は約44%を占めた。一方、「非常に大きな負担である」が14.1%、「かなり負担だと思う」が19.2%であり、負担感を強く感じている者も約3割みられた。

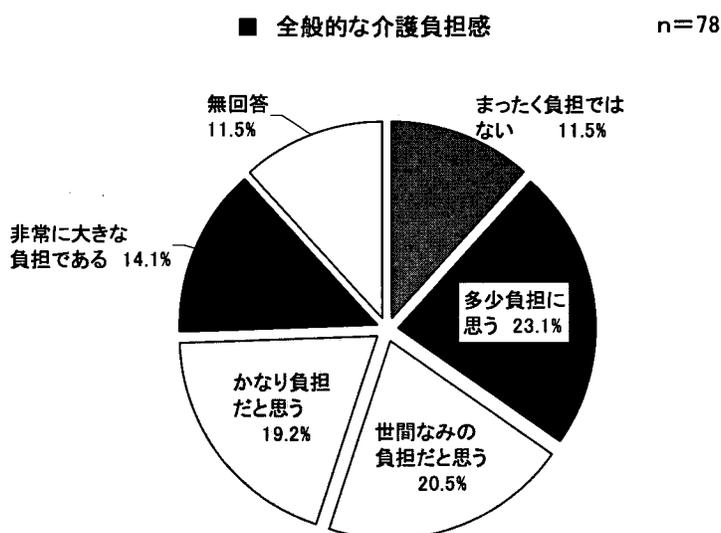


図3\_1\_3 全般的な介護負担感—全体—

(介護負担感判定結果)

介護負担感をスコア化し、全体の中央値 (median: 本項の場合は 50 点) で高値、低値にわけ、さらに、それぞれを任意に二分割した結果をみると、図 3\_1\_4 のようになる。

これを特に被介護者の年齢別にみると、被介護者「70 歳未満」や「70～74 歳」で介護負担感が高値 (スコア 50 以上) を示す割合が高く、「80～84 歳」や「80 歳以上」では、むしろ低値 (スコア 50 未満) の割合が高かった。前述の N-ADL の状況と同様、介護負担は必ずしも年齢とは相関しないといえる。

■ 介護負担スコア (構成割合) —全体—

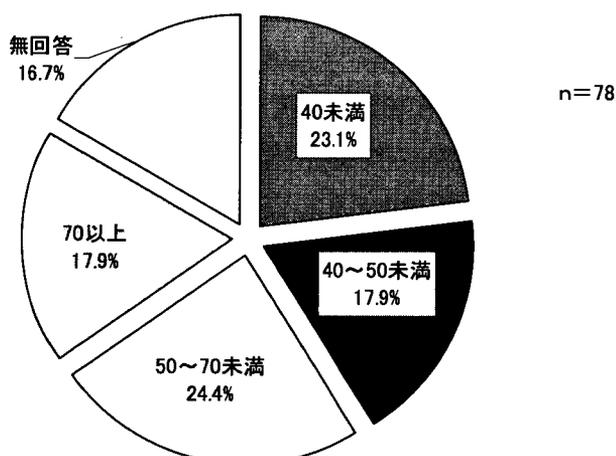


図 3\_1\_4 介護負担感判定結果—全体—

表 3\_1\_3 要介護者の性別・年齢階級別にみた介護負担度スコア

\* 上段: 実数 (人)、下段: 構成割合 (%)

	n	← 低 → 高 →					
		40 未満	40～50 未満	50～70 未満	70 以上	無回答	
全体	78	18	14	19	14	13	
	100.0	23.1	17.9	24.4	17.9	16.7	
性別	男性	25	7	4	8	3	3
		100.0	28.0	16.0	32.0	12.0	12.0
	女性	44	11	10	10	10	3
		100.0	25.0	22.7	22.7	22.7	6.8
	無回答	9	-	-	1	1	7
	100.0	-	-	11.1	11.1	77.8	
年齢別	70 歳未満	9	2	-	5	1	1
		100.0	22.2	-	55.6	11.1	11.1
	70～74 歳	11	3	1	2	4	1
		100.0	27.3	9.1	18.2	36.4	9.1
	75～79 歳	11	2	2	3	2	2
		100.0	18.2	18.2	27.3	18.2	18.2
	80～84 歳	19	8	4	3	4	-
	100.0	42.1	21.1	15.8	21.1	-	
85 歳以上	19	3	7	5	2	2	
	100.0	15.8	36.8	26.3	10.5	10.5	
	無回答	9	-	-	1	1	7
	100.0	-	-	11.1	11.1	77.8	

---

\* 「介護負担感」判定について

○日本語版ZBI(Zarit Burden Inventory)に準拠

ZBIはZaritによって開発された22項目からなる介護負担感評価尺度である。Zaritの定義によれば、介護負担は「親族を介護した結果、介護者が情緒的、身体的、社会生活及び経済状況に関して被った被害の程度」とされており、ZBIはこの定義に基づいて作成された尺度である。日本語版は新井(1998)によって作成された。

1～21項目までの各質問は「なし=0」～「ほとんど常に=4」の5件法で回答を求める。22項目については、包括的な介護負担を問う質問であり、全体として介護がどの程度負担かを、「まったく負担ではない=0」～「非常に大きな負担である=4」の5件法で回答を求める。以上22項目の合計得点を介護負担感の指標として用いることが可能であり、得点が高いほど介護負担の程度が高いことを示す。

### 1.3 BPSD（認知症に伴う行動と精神症状）の状況

被介護者のBPSDないし認知症に伴う事項への回答としては、図3\_1\_5のように、「同じ事を何度も聞く」をあげる介護者がもっとも多く全体の半数近くの47.4%にのぼった。次いで、「よく物をなくしたり、置き場所をまちがえたり、隠したりする」や「日常的な物事に関心を示さない」が30%前後（それぞれ32.1%、28.2%）であった。その他、「昼間寝てばかりいる」「尿失禁をする」が20%台で、相対的に多い部類に属する。なお、当該設問に対しては、全体の3割強が無回答であった。

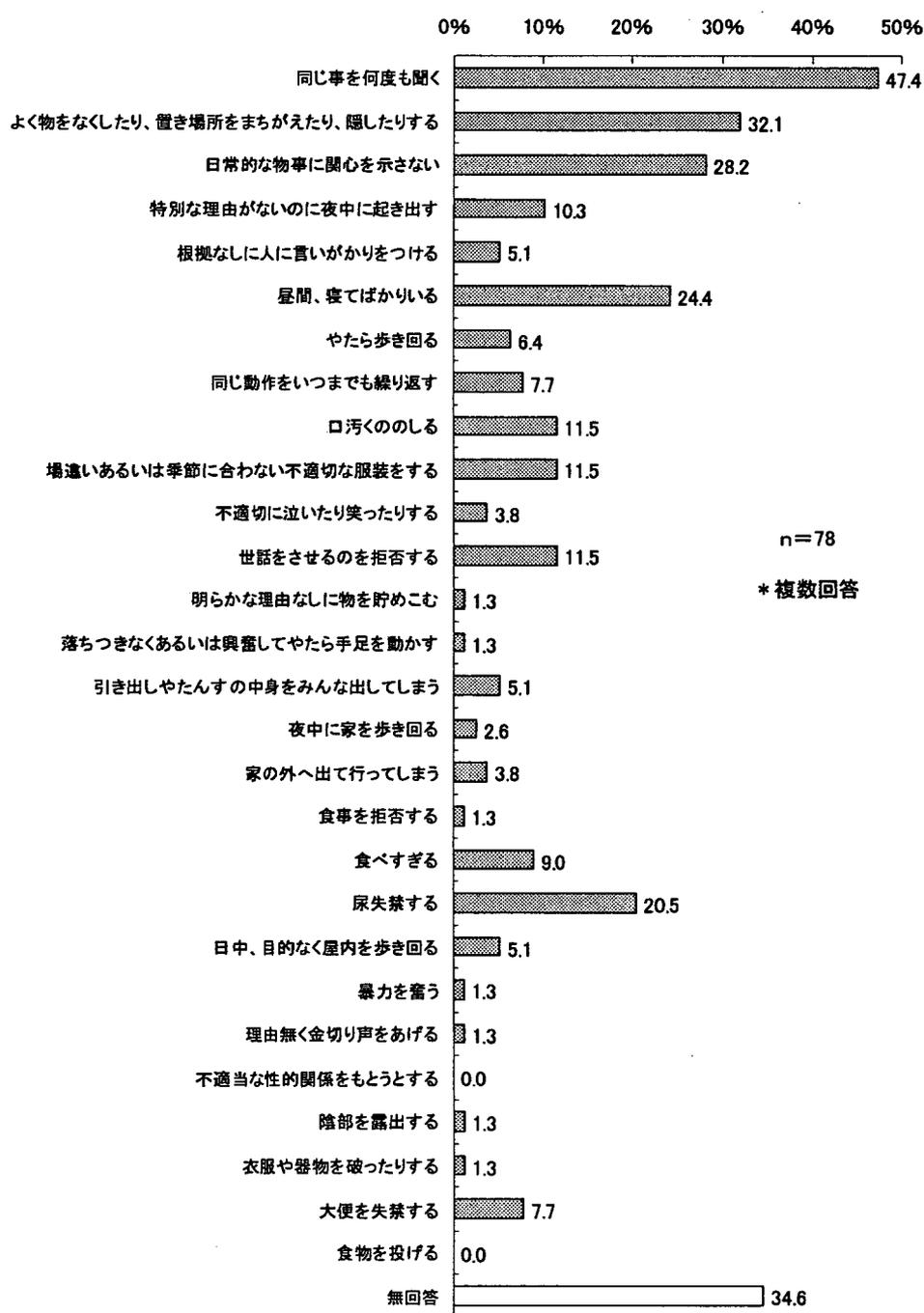


図3\_1\_5 BPSD関連事項への回答割合—全体—

表 3\_1\_4 は B P S D 関連事項への回答をスコア化 (28 項目への回答個数) したものを被介護者の性別・年齢別にみたものである。全体では「1~2」や「3~4」が多く、4割以上を占めた。次いで、「5~6」が 15.4%であった。「7~9」や「10以上」の B P S D が疑われる者は 10%弱であった。

この認知症が疑われる「7~9」ないし「10以上」の者は女性に多く、7人中5人が女性であった(男性1人、無回答による性別不明1人)。年齢別では特徴的な傾向は見出せず、本調査における限り、B P S D と年齢は必ずしも相関していなかった。

表 3\_1\_4 要介護者の性別・年齢階級別にみた B P S D スコア (該当項目数) 分布

\* 上段：実数 (人)、下段：構成割合 (%)

		n %	1~2	3~4	5~6	7~9	10以上	無回答
全 体		78	18	16	12	4	3	25
		100.0	23.1	20.5	15.4	5.1	3.8	32.1
性別	男 性	25	7	4	4	1	0	9
		100.0	28.0	16.0	16.0	4.0	0.0	36.0
	女 性	44	11	11	7	3	2	10
		100.0	25.0	25.0	15.9	6.8	4.5	22.7
	無回答	9	-	1	1	-	1	-
		100.0	-	11.1	11.1	-	11.1	-
年齢別	70歳未満	9	2	2	2	1	-	2
		100.0	22.2	22.2	22.2	11.1	-	22.2
	70~74歳	11	4	2	-	-	2	3
		100.0	36.4	18.2	-	-	18.2	27.3
	75~79歳	11	2	2	3	-	-	4
		100.0	18.2	18.2	27.3	-	-	36.4
	80~84歳	19	3	4	4	1	-	7
		100.0	15.8	21.1	21.1	5.3	-	36.8
	85歳以上	19	7	5	2	2	-	3
		100.0	36.8	26.3	10.5	10.5	-	15.8
	無回答	9	-	1	1	-	1	6
		100.0	-	11.1	11.1	-	11.1	66.7

\* 「B P S D スコア」について

DBDスケール(Dementia Behavior Disturbance Scale:溝口(1993))の項目を参考に、該当項目を2件法で問う方法によりBPSDを測定した。

#### 1.4 要介護高齢者のADLと介護負担感の関係

前述の被介護者ADLと介護者の介護負担感がどのように関係するのかをみた。対象は被介護者ADL関連設問項目及び介護者としての介護負担感関連項目のすべてに回答した59人である。

図 3\_1\_6 には両者のスコアを散布図で示したが、相関係数は $-0.363$  であり、被介護者ADLと介護負担感には一定程度の相関があるといえる。強い相関を示さないのは、介護者の介護に対する意識・モチベーションの違いのほか、総合的なADLが比較的高い場合でも、認知症等による問題行動等があることによって、負担感が高まることなどが関係しているものとみられる。

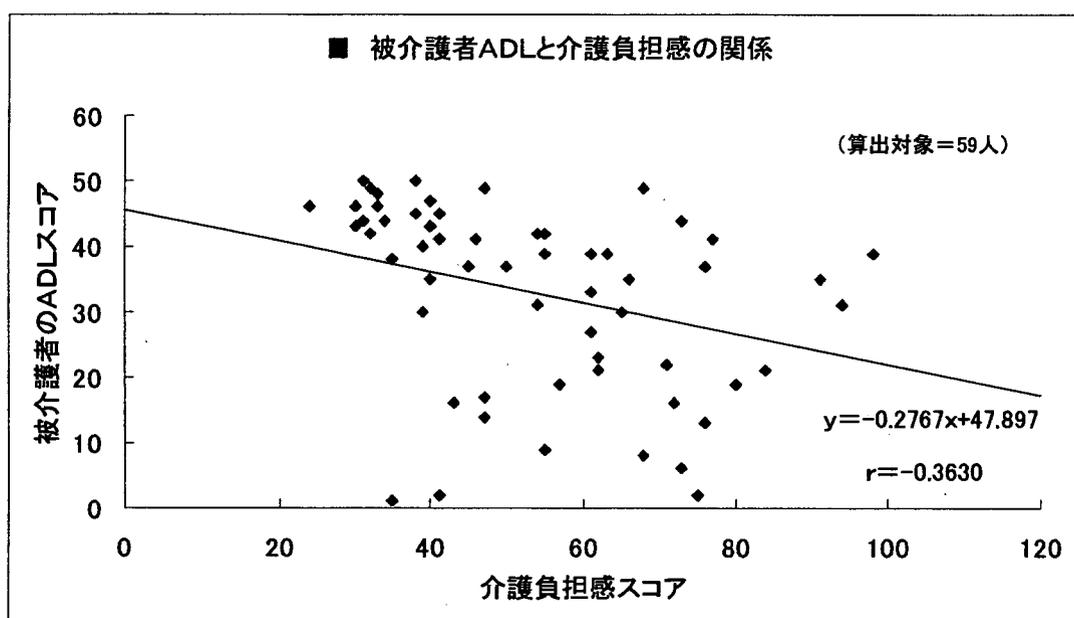
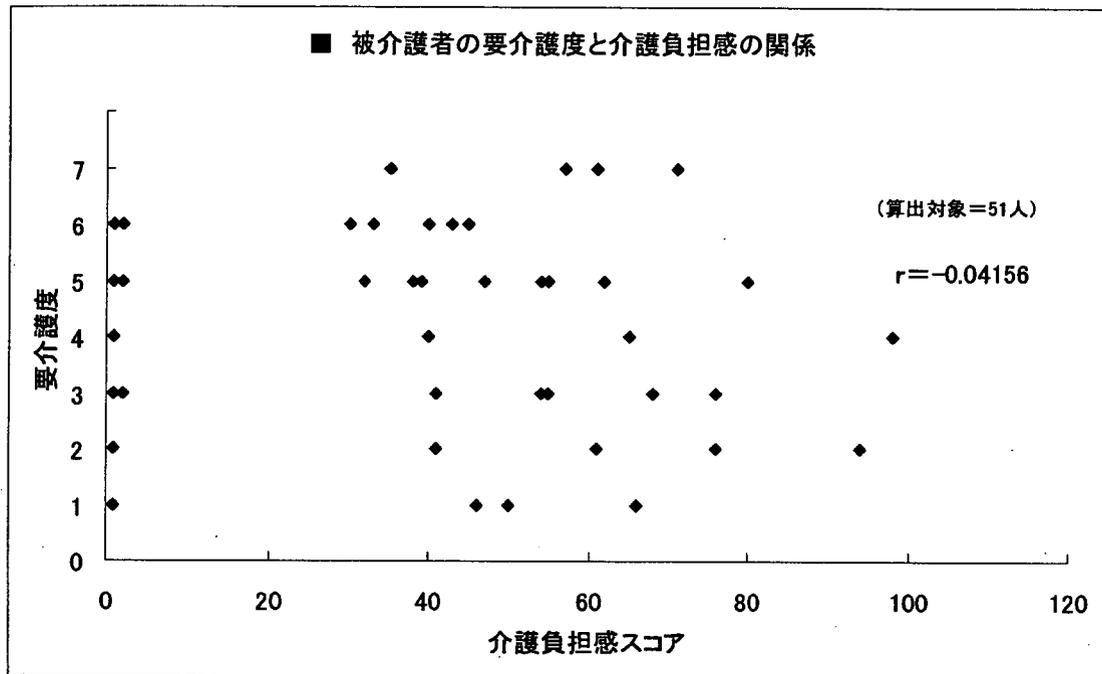


図 3\_1\_6 被介護者ADLと介護者の介護負担感の相関関係



## 【参考】 要介護度と介護負担感

被介護者の要介護度と介護負担感には相関がみられなかった ( $r=0.04156$ ) が、要介護認定者の場合、適切なケアプランの策定と、それに基づく介護サービスの提供により、介護負担度が軽減されているケースも少なくないことが推察される。



注) 要介護度のスケールは「要支援1」=1、「要支援2」=2……「要介護5」=7

図 3\_1\_8 被介護者の要介護度と介護者の介護負担感の関係

## 2 健康度測定の結果と考察

### 2.1 運動能力測定について

#### (1) 運動能力測定結果（第1回目：平成18年度）

運動能力測定のうち、身体機能に関する測定の結果を表3\_2\_1に示した。このうち、特に肥満等の状況についてみると、BMI判定では、全体の半数近く（48.3%）が「理想体重」であったが、「肥満度1」の28.3%をはじめ、「過体重」11.4%であるほか、「過体重」から「肥満3度」の者の割合も合わせて約4割（41.5%）となっている。他方、「やせすぎ」「やせ気味」は合わせて約1割の9.8%であった。なお、性別でみると、女性よりも男性に肥満傾向を示す者が多かった。

胴周囲判定結果では、「問題なし」58.8%、「問題あり」（上半身肥満）が41.2%であった。

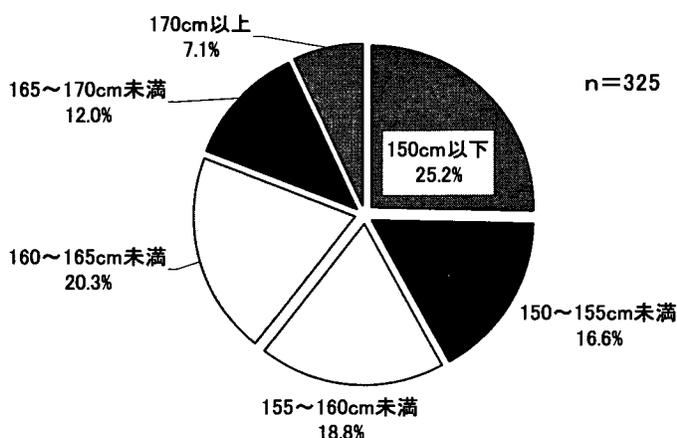
表3\_2\_1 第1回目測定 身長・体重・肥満の状況

#### ① 身長

\* 上段：実数（人）、下段：構成割合（%）

		n	150cm以下	150～155cm未満	155～160cm未満	160～165cm未満	165～170cm未満	170cm以上
		%						
全体		325	82	54	61	66	39	23
		100.0	25.2	16.6	18.8	20.3	12.0	7.1
性別	男性	175	5	16	32	61	38	23
		100.0	2.9	9.1	18.3	34.9	21.7	13.1
性別	女性	150	77	38	29	5	1	-
		100.0	51.3	25.3	19.3	3.3	0.7	-
年齢	65～69歳	82	14	13	14	21	12	8
		100.0	17.1	15.9	17.1	25.6	14.6	9.8
	70～74歳	110	22	17	24	26	12	9
		100.0	20.0	15.5	21.8	23.6	10.9	8.2
	75～79歳	61	17	9	12	12	8	3
	100.0	27.9	14.8	19.7	19.7	13.1	4.9	
年齢	80～84歳	45	21	7	7	5	4	1
		100.0	46.7	15.6	15.6	11.1	8.9	2.2
年齢	85歳以上	27	8	8	4	2	3	2
		100.0	29.6	29.6	14.8	7.4	11.1	7.4

■ 身長測定結果—全体—

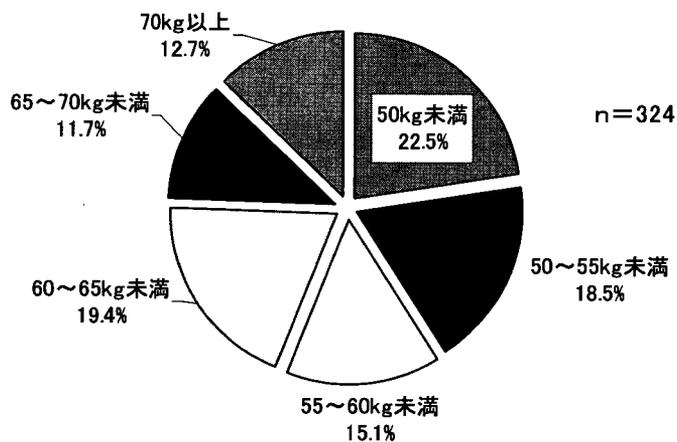


## ②体重

\*上段；実数（人）、下段；構成割合（%）

		n	50kg未満	50～55kg 未満	55～60kg 未満	60～65kg 未満	65～70kg 未満	70kg以上
全 体		324	73	60	49	63	38	41
		100.0	22.5	18.5	15.1	19.4	11.7	12.7
性 別	男性	174	12	18	24	48	34	38
		100.0	6.9	10.3	13.8	27.6	19.5	21.8
女性	150	61	42	25	15	4	3	
	100.0	40.7	28.0	16.7	10.0	2.7	2.0	
年 齢	65～69 歳	82	10	16	17	13	12	14
		100.0	12.2	19.5	20.7	15.9	14.6	17.1
	70～74 歳	110	21	18	16	25	14	16
		100.0	19.1	16.4	14.5	22.7	12.7	14.5
	75～79 歳	61	17	10	5	13	9	7
		100.0	27.9	16.4	8.2	21.3	14.8	11.5
80～84 歳	44	13	13	8	7	2	1	
	100.0	29.5	29.5	18.2	15.9	4.5	2.3	
85 歳以上	27	12	3	3	5	1	3	
	100.0	44.4	11.1	11.1	18.5	3.7	11.1	

■ 体重測定結果—全体—



③ BMI

\*上段：実数（人）、下段：構成割合（％）

		n %	やせすぎ	やせ気味	理想体重	過体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	判定 不能
			17.6以下	17.7～ 19.8以下	19.9～ 24.1以下	24.2～25 未満	25～30 未満	30～35 未満	35～40 未満	
全体		325 100.0	3 0.9	29 8.9	157 48.3	37 11.4	92 28.3	4 1.2	2 0.6	1 0.3
性別	男性	175 100.0	1 0.6	14 8.0	74 42.3	22 12.6	60 34.3	2 1.1	1 0.6	1 0.6
	女性	150 100.0	2 1.3	15 10.0	83 55.3	15 10.0	32 21.3	2 1.3	1 0.7	-
年齢	65～69歳	82 100.0	-	6 7.3	40 48.8	7 8.5	28 34.1	1 1.2	-	-
	70～74歳	110 100.0	1 0.9	8 7.3	48 43.6	19 17.3	32 29.1	1 0.9	1 0.9	-
	75～79歳	61 100.0	-	5 8.2	33 54.1	6 9.8	16 26.2	-	1 1.6	-
	80～84歳	45 100.0	1 2.2	4 8.9	21 46.7	5 11.1	12 26.7	1 2.2	-	1 2.2
	85歳以上	27 100.0	1 3.7	6 22.2	15 55.6	-	4 14.8	1 3.7	-	-

■ BMI判定結果—全体—

